

学校概要

| | | | | | | | |
|---------------------|------|-----------|-----------|---------------------|-------|--------|------|
| 創立 | 29周年 | 学校長 福田 之男 | 副校長 鬼丸 玲子 | 学期 | 3 学期制 | 児童・生徒数 | 335人 |
| 学級数 一般級: 9 個別支援級: 4 | | | | 主な関係校: 高田小学校 高田東小学校 | | | |

学校教育目標

学ぶことを通して、自ら課題を形成し、その課題を自ら解決し21世紀を生き抜く力をもった人を育てる。(ストリートスマート、地域リーダーの育成) 子どもたちの自己実現を支援するために次の力をはぐみます。

- * 自ら学習力の向上に努め、自立的に学び続けていく力(知)
- * 生命を尊重し、心身の健康を維持向上していく力(徳・体)
- * とともに認め合い社会参画に努め、自他および社会を高めていく力(公・開)

学校の特徴

- 学校周辺には農地があり、その周囲に住宅が広がり、自然環境に恵まれ他地域である。
- 小中12人会議、90人会議、校長のランチミーティングなどを実施することにより、小中の連携が密である。
- 年齢層は若い、生徒や保護者に寄り添った対応ができる職員が多い。
- 地域全体で学校を守り発展させようと、PTAを中心に、学校に対して協力的である。
- 生徒は学習への関心や意欲があり、真面目に取り組むが、自信のない生徒が多い。

学校経営中期取組目標

- ・「総合的でバランスのとれた学校づくり」の実現に向け、教職員相互が啓発・連携し合い学校経営への参加意欲を高めるとともに、組織的・効率的な学校運営に努めます。
- ・生徒一人ひとりが学力の向上を実感でき、価値ある生き方を求めて自己変革していくことを支援するため、教職員の研修を充実し、共通理解を深め理解力・指導力の向上につなげます。
- ・開かれた学校づくりを一層推進し、学校・家庭・地域との連携・協働による学校づくりを進めます。

小中一貫教育の取組

5高田中学校ブロック: 高田中学校 高田小学校 高田東小学校

| | |
|-------------|---|
| 9年間で育てる子ども像 | 自ら学び、考え、表現することのできる子ども |
| 自校の具体的取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を活用し、情報収集を行い、考えたことを表現する力を育成する。 ・ICT機器を活用し、生徒の学びへの興味・関心を喚起する。 ・各教科の指導において言語活動の場を単元や単位時間の中で設定し、随時適切な評価を行う。 ・年間2回情報交換のための研究授業を実施する。 |

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|--------------|---|---|
| 確かな学力 | 基本的な学習態度の習慣化を図る指導とともに、言語活動の場を授業に設定することにより、思考・判断・表現の力を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国や市の学力・学習状況調査の結果を検証し、授業に生かしていく。 ・研究授業を行い、教職員がお互いの授業を見合い高め合う。 ・各教科において言語活動の力を高める授業の展開を研究する。 |
| 豊かな心 | 全教育活動で道徳・人権教育を推進し、互いの違いを認め合い、自らの生き方を切り拓き、共に安心して学校生活を送れる生徒を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修会(人権・道徳)を実施して子どもの実態を多角的に理解することで、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるようにする。 ・道徳の授業では、生徒の成長過程や学校行事に合った教材を用い、生き方についてより深く考える力を養っていく。 ・人権作文コンテストに全員が参加することで、人権への理解と意識を高める。 |
| 健やかな体 | 自らの心や体の状態を把握し、安全面に留意し、運動の意義や効果について関心と理解を深め、体力向上・運動習慣の改善を自ら目指す生徒を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康観察、健康診断、健康相談活動から健康状態を把握し、調和のとれた生活を続けるための支援を行う。 ・資料を活用した健康教育を通して、健全な体の育成のための知識を深める。 ・体力テストをもとに自分自身の体力を知り、向上のための持続的な運動を行う。 |
| 生徒指導 | 生徒・保護者との信頼関係を深め、生徒理解につなげ、全職員で基本的な生活習慣の確立を目指し、共通理解・情報の共有化をすすめ、規範意識の指導に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習や学級活動を充実させることで、生徒の自尊感情を高める。 ・毎月の生活アンケートを実施することで、生徒理解を深め、教育相談の充実を図る。 ・YPAアセスメントを活用することで、生徒理解を深め、学級活動の充実を図る。 |
| キャリア教育 | 生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進の取組と連動させ、9年間のキャリア教育(自分づくり活動)の指導計画を作成する。 ・キャリア教育の根幹を表現力の育成、言語活動の活性化と位置づけ、すべての教科でそれらの指導場面を組み入れた授業を工夫する。 |
| 特別支援教育 | 特別な支援を要する生徒について教職員の共通理解を図り、家庭との連携を深め、学校生活の様々な場面で、個々の特性や状態に応じた指導に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般学級に在籍する、特別な支援を必要とする生徒の「個別支援計画」および「個別指導計画」の作成の仕方を全職員に周知する研修会を開く。 ・個別支援級生徒の個々の特性や課題をしっかりと把握し、一人ひとりにあった支援・指導を行う。 |
| 学校運営協議会・地域連携 | 教育活動について積極的に発信し、保護者や地域住民からの理解と信頼を高めるとともに、地域と連携・協力を密にし、生徒の地域での活動を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページなどを用いて情報発信に努める。 ・学家地連、地区懇談会、学校運営協議会などを活用し、地域と意見交換をする。 ・地域の活動に生徒が参加できるよう体制を整備する。 |
| 人材育成・組織運営 | 人材育成の視点を重視した組織編成を進め、若手職員、中堅職員を組織のリーダーとして起用し、更なる組織の活性化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己観察書の各分野にキャリアステージに応じた人材育成の目標を設定する。 ・学年会・指導部会を人材育成の場として活用し、経験の浅い職員へ適切な指導・助言を行う。 ・メンターチームを組織し、お互いが学びあう場や体制をつくる。 |